

## 西濃農林事務所の普及活動状況 令和5年4月28日現在

### 今月の重点活動

#### ■加工業務用タマネギ ドローンによる薬剤散布試験

4月13日、JAにしみのとJA全農岐阜が、ドローン防除による薬剤の効果確認試験のため、大垣市の加工業務用タマネギ栽培圃場で薬剤散布を行った。

薬剤散布に使用したドローンは、県スマート農業推進室所有のドローンT20で、操縦は岐阜農林事務所及び西濃農林事務所の職員が担当した。

圃場では、薬剤散布前に病害虫発生程度を調査した後、タマネギに感水紙を張り付け、ドローンによる薬剤散布後、薬剤の付着程度を確認した。この結果から、ドローン散布では、葉裏に薬剤が付着しにくいことが明らかとなった。農林事務所では、今後薬剤の効果確認を行い、実用性について検討していく。



【ドローン散布の様子】

### 西濃の農業・農村を支える人材育成

#### ■土地利用型作物 土地利用型営農組織の法人化に向けて

輪之内町では、土地利用型農業の担い手である営農組織の法人化へ向けた打ち合わせが活発に行われており、（4/15：下大樽営農組合、4/29：楡俣北部営農組合）、4/22には、福東営農組合が「農事組合法人ふくづか」として設立総会を開催した。

農林事務所では、今後もぎふアグリチャレンジ支援センターや輪之内町役場と連携しながら法人化が円滑に進むよう支援を継続していく。



【下大樽営農組合】

#### ■女性農業経営アドバイザー 西濃ブロック役員会、全体会の開催支援

西濃ブロック女性農業経営アドバイザーの役員会が4月10日に、全体会が4月14日に西濃総合庁舎で開催された。

今年度、西濃ブロックは県連組織「GLAMAいきいきネットワーク」の視察研修開催ブロックとなっていることから、視察先の選定、研修内容の検討などを行っている。

5月23日に開催される第1回GLAMAいきいきネットワーク推進会議で視察研修のプランが提示できるよう、農林事務所では引き続き会場の下見や打ち合わせを行い、女性農業経営アドバイザーの活動を支援していく。



【西濃ブロック全体会の様子】

#### ■西南濃地区農業婦人クラブ連絡協議会 令和5年度通常総会の開催

西濃地区では、大垣市、旧上石津町、垂井町、安八町の4グループの67名で西南濃地区農業婦人クラブ連絡協議会を構成し、活動を行っている。4月17日に、大垣市西部研修センターで、対面による通常総会が2年ぶりに開催された。総会では、今年度の活動計画が示され、新型コロナも治まってきたことから、今年度は昨年度以上に活動を行うこととなった。

農林事務所では、今年度も研修会の開催など、同協議会の活動を支援していく。



【総会の様子】

## ■ 4Hクラブ 4Hクラブ活動PR

大垣市では、若手農業者7人で大垣市4Hクラブが組織化されている。4月2日に、4Hクラブ員5名が、大垣市の主催による「まちなかスクエアガーデン」に参加した。4Hクラブロゴが入ったジャンパーを着用し、活動PRを兼ねて鉢花やトマト、はちみつなどの販売を行った。

今後も大垣市が主催するイベントや農業フェスティバルへの参加など活発に動いていく予定である。農林事務所では、今後も情報提供などの面で活動を支援していく。



【4Hクラブの活動の様子】

## 安全で身近な「西濃の食」づくり

### ■ 小麦 今シーズンの小麦の出穂

海津市は県内有数の小麦産地で「イワイノダイチ」と「さとのそら」の2品種の小麦が栽培されている。今シーズンは2月末以降高温が続いたため、出穂時期が平年より1週間以上早くなり、「イワイノダイチ」は3月末、「さとのそら」は4月上旬に出穂した。

赤かび病防除時期もこれに合わせて早くなると予想されたため、農林事務所ではJA等関係者と連携し、防除日を早めるように調整を行った。出穂後も平年より高温傾向の日が続いており、その後の生育も早くなっている。農林事務所では、関係者と情報共有を密にし、安全安心かつ高品質・高収量の小麦生産を支援していく。



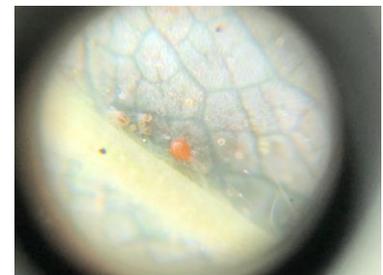
【小麦の出穂状況】

## 西濃の農畜水産物のブランド展開

### ■ いちご いちご天敵実証圃最終調査

4月13日に、令和4年産で実証中のミヤコカブリダニパック製剤（商品名：バンカーシート）の最終の天敵調査をメーカーとともにを行った。今作は、厳寒期の冷え込みがきつく、天敵の増殖が遅れ、一時的にハダニの増殖を許す時期もあったが、気温の高まりとともに天敵も増殖し一定の効果は確認できた。しかし、アブラムシ類については、天敵放飼中ということで薬剤が制限され終始増殖を許し、総合的な防除としては課題が残る結果となった。

農林事務所では、令和5年産においてアブラムシ類も含めた防除体系の構築に向けて取り組む。



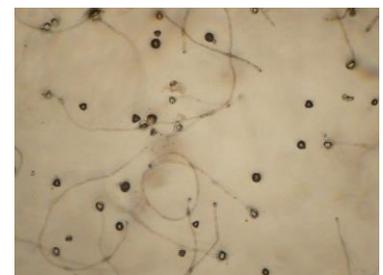
【卵を捕食するカブリダニ】

### ■ ナシ 南若森園芸組合 花粉の発芽検査

4月3日、南若森園芸組合を対象に、ナシの花粉の発芽検査を行った。ナシでは安定・多収生産に向け、人工受粉を行うため、使用する花粉の発芽率の確認が必要である。

当日朝、南若森地内の倉庫に生産者が花粉を持ち寄り、あらかじめ農林事務所が準備した寒天培地の上に花粉を撒いた。その後、恒温器内で花粉を発芽させ、その発芽率を確認し、その日の夕方に生産者に報告した。

花粉の発芽率は生産者により差が見られたものの、ナシの開花期は晴天に恵まれたことから、安定した受粉により、例年以上の多収が期待される。



【花粉発芽の様子】